

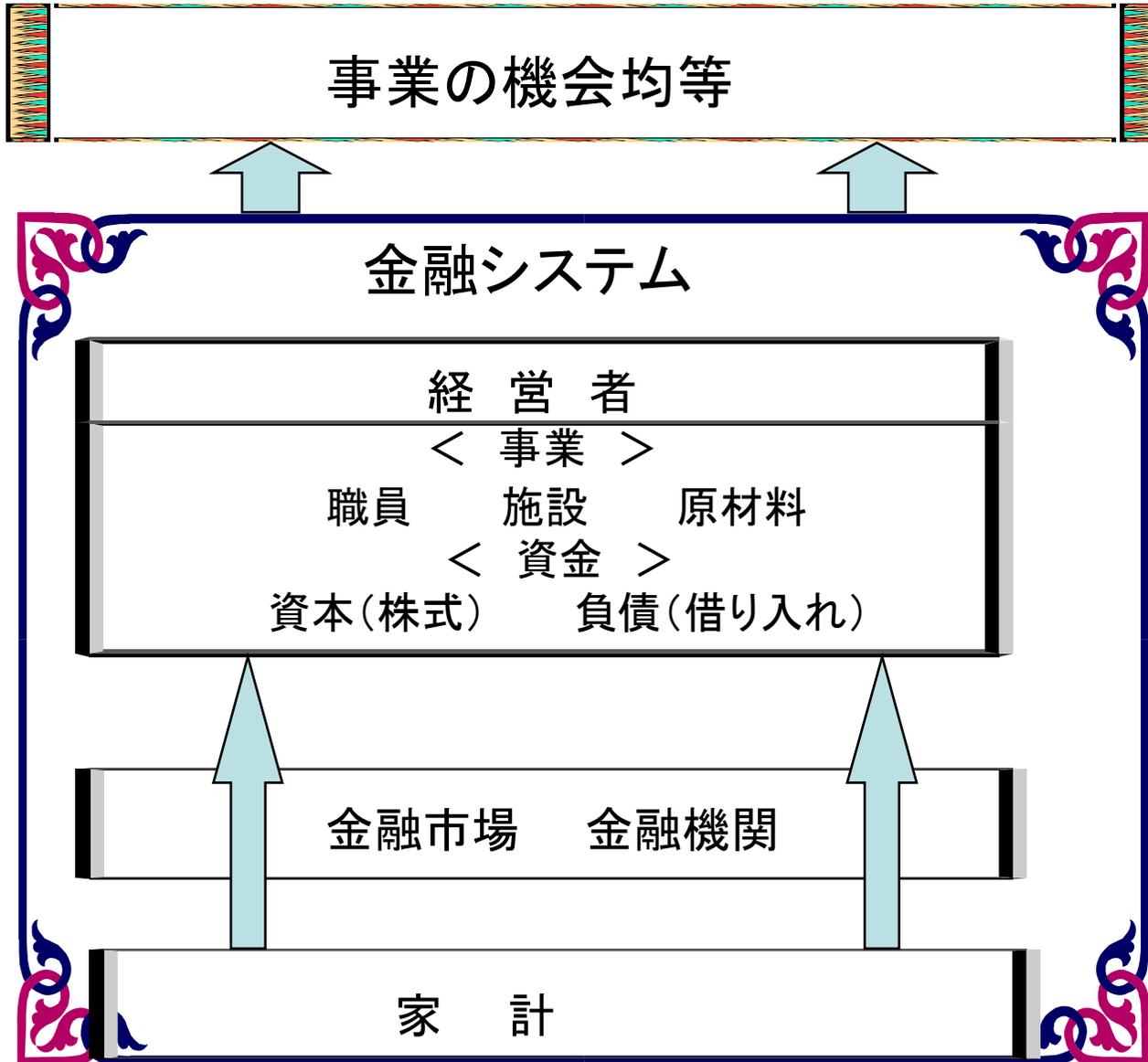
証券監視委員会の機能と課題

2009年12月21日

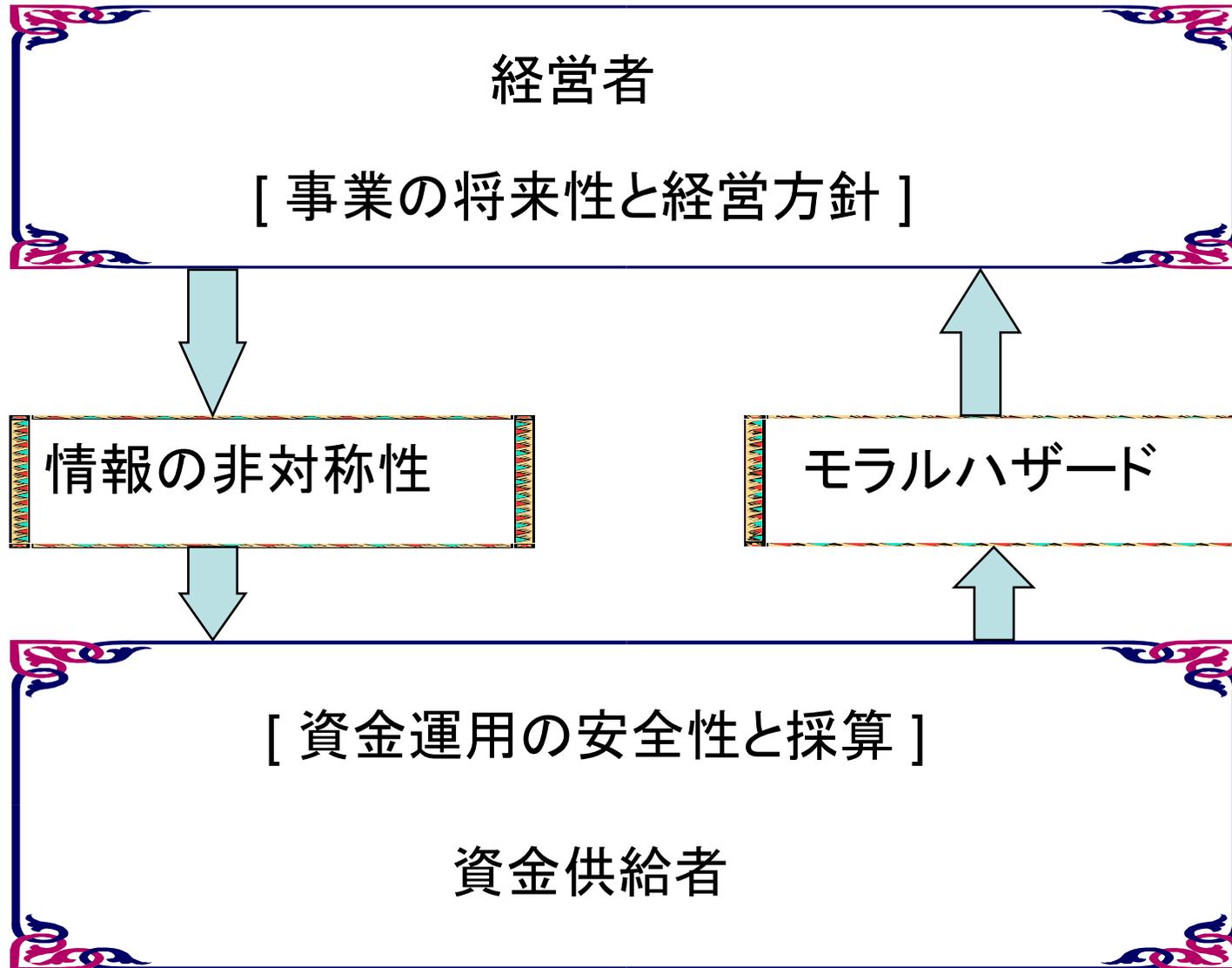
証券取引等監視委員会

木下信行

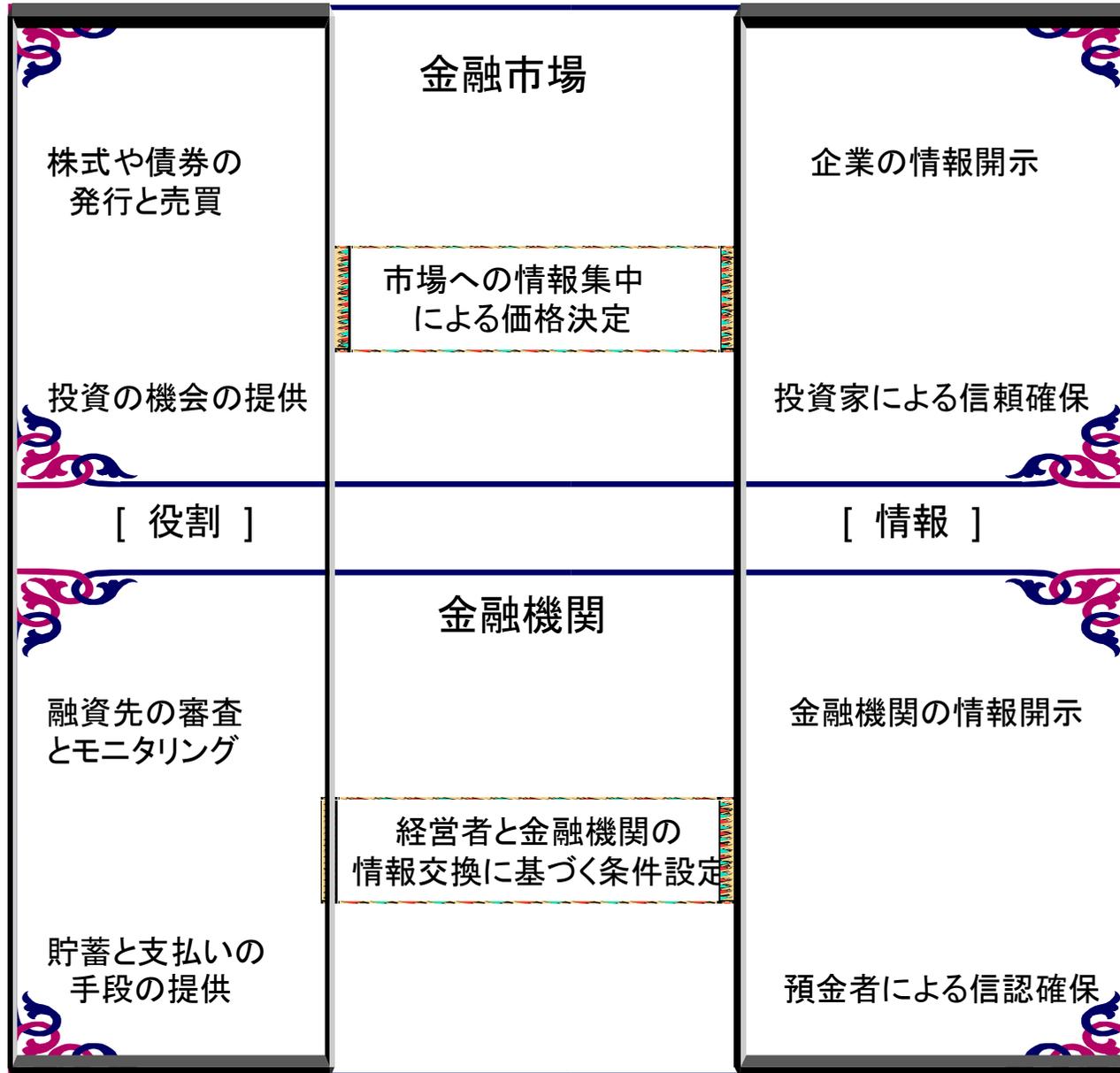
金融システムの役割



金融システムの問題点



金融市場と金融機関



金融行政の主な機能と証券監視委員会

[金融市場]

< 金融商品の取引 >

- 情報の適正性の確保(会計監査等)
- 情報の流通の促進(証券取引所等)
- 情報の公正な利用(不公正取引規制等)

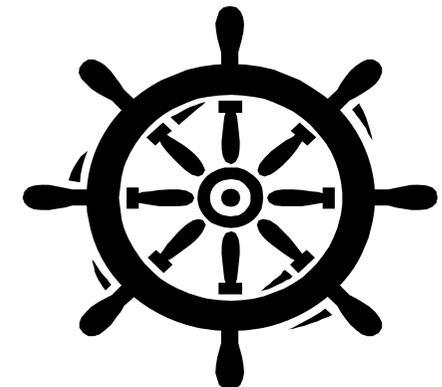
< 金融商品の仲介事業者 >

- 金融商品に関する情報提供(リスク情報等)
- 金融商品の適正な仲介(適応性原則等)

< 証券監視委員会 >

[金融機関]

- 金融機関のセーフティネット(預金保険等)
- 金融機関の監督(銀行、保険会社等)
- 金融機関の情報開示(不良債権額等)



証券監視委員会の具体的活動

使命

市場の公正性・透明性を確保し、投資者を保護すること

具体的な業務

情報の収集・分析・審査

情報の検討・処理(検査、調査)

情報の発信(通知、勧告、告発、公表)

中期的な活動方針(平成19年9月策定)

基本的な考え方

機動性・戦略性の高い市場監視

市場規律の強化に向けた働きかけ

(重点項目)

包括的かつ機動的な市場監視の実施

課徴金制度の一層の活用

金商法の適切な運用

自主規制機関等との連携

グローバル化への対応



証券監視委員会を取り巻く環境変化

世界的な金融危機とその影響

金融商品のリスクの増大
金融市場の混乱
実体経済の減速

不公正取引の誘因の増大
金融商品取引業者の財務面のリスクの増大

金融規制の見直し



証券監視委員会の対応すべき課題

市場の公正性・透明性に関するリスクの深化への対応
⇒ 市場動向のタイムリーな把握
対処すべきリスク要因の分析

行政対象の増大、多様化への対応
⇒ 効率的な事務運営
行政手法の多様化



市場監視における取組み

情報の収集・分析・審査

発行市場と流通市場の双方に目を向けた監視

店頭デリバティブ等の取引の実態把握、監視手法の検討にも注力

情報の検討・処理と個別の発信

不公正取引に対する監視の強化

課徴金	監査役、公認会計士、証券会社社員等による内部者取引 相場操縦事案
犯則事案	不公正ファイナンス等の偽計事件としての告発 クロスボーダー事案

規制環境の変化への的確な対応

改正金商法の的確な執行
グローバル化、IT化の進展への対応

公表による情報発信

個別事案、課徴金事例集の公表

情報発信のチャネル、内容の充実



証券検査における取組み

証券検査の業務見直し

「証券検査に関する基本指針」の改正

- 内部管理やリスク管理の態勢にも着目
- 予告検査の試行的実施
- 経営陣等との意見交換の充実
- 提出資料一覧の作成
- オフサイトモニターの充実

多様で多数の対象事業者に対する実効的な検査

情報の分析に基づくリスクベースでの事務運営

検査における情報の検討・処理の手法の多様化

- グローバルに活動する事業者のリスク管理態勢の検証
- 信用格付け会社に対する検査手法の構築
- 集団投資スキームに対する検査の実施

検査対象事業者のインセンティブに働きかける情報発信

